教員採用試験受験における STEAM 教育の活用実践（受験報告）

植　野　友　萌*

1. 受験の概要

筆者が教員採用試験で合格した自治体は北海道・北九州市・福岡県の3か所である。本稿では、そのうちSTEAM Lab カリキュラム・マネジメント副部門長としての活動実績や教育実習の研究授業などで取り組んだ内容をどのように受験時にアピールし、合格にたどり着けたのか、その体験についてまとめておきたい。

2. 受験に向けての準備・出願（エントリーシート）

4月ごろから始まる出願で、エントリーシートを書き始めた。全国どこでも出願するようにし、最初の方に書いたところよりも、自己分析が進んでいくにつれてより内容も深くなっていった。さらに、その間に小学校の教育実習にもいき、自分の文章をより理解することができるようになった。早めの内から、たくさんの項目のエントリーシートを書いたので、自分についても、教育についても、しっかりと考えることができた。それが面接対策の一つとして大きな土台となった。

3. 高知県

高知県での筆記試験では、過去のテストを解き傾向をつかむことに努めた。自分の苦手分野を再確認し、試験当日も落ち着いて挑むことができた。

4. 浜松市

浜松市では、エントリーシート「浜松市の教員とそてやってみたいこと」に「STEAMLab で学んでいることを活かし、教育課程内外・学校内外の「つながり」を重視した教育活動を通じたカリキュラムマネジメントの実践」の点を記入した。

面接では「複数の免許を持っているのになぜ小学校にしたのか」との質問に「小学校と中学校の教育実習を行い、小学校の内から未来を見据えた授業を行うことで学習意慾の向上ができると考えている。そのためにSTEAMLab で勉強していることで貢献できる」と回答し、自分の特徴や経験に向いている学校種を希望した点をアピールした。

5. 大阪府

和歌山県では、エントリーシート（面接個票）の「経験・特技」の欄に STEAMLab 学生部カリキュラムマネジメント部門副部門長と記入した。

中学校の教育実習では授業の際に題材の中だけで完結してしまい、生徒が自分とのつながりを見出せずに興味を引き出すことが出来なかった。その結果、他教科とのつながりや小学校の授業内容を踏まえた中学校の授業が必要であると実感した。反省を踏まえて小学校の教育実習では小学2年生「カタカナの使い方」の授業では万葉仮名との関連や社会科で文字の歴史に触れた。さらに、iPad と applepencil やプロジェクターを使用して児童の考えを共有した。

面接では小中連携枠で受験したので実習の質問があり、STEAMLab に所属して、小学校・中学校のどちらでもいけるように勉強している。カリキュラムマネジメントを通じた批判的思考力の育成をしたいことを伝えた。

6. 北海道

面接ではエントリーシートからの質問が中心であった。「ICT に関する知識を活用し、授業で実践できると考えていること」については、「児童の気づきを引き出す手段として ICT を活用し、生活に関連づけた授業展開に ICT 機器を役立てるように、手書き教材のデジタル化などを用いた板書の工夫や視覚的支援につながる動画教材の作成提示など、目的に応じた従来教具との併用に努める。」と記した。これについて、質問があったので、小学2年生「2桁の筆算」の単元で授業を行った実習の話をした。全員が授業目標に到達するために、筆算の手順の解説動画を作り、困っている児童は動画を見ながらひとりで解ける工夫を行った。動画も大切だが、まずは基本的な授業力など、先生自身の力量で展開してい

*大阪大谷大学

くことが大切であると実感した。

7. 北九州市

北九州市では、集団討論・模擬授業・面接があった。集団討論は「学習意慾向上のために何を工夫するか」という題であった。これは STAEMLab の仲間と普段から議論してきた内容であったため「①主体性②自発性」の二つの柱に分けて論じることができた。模擬授業では「分数」の単元であった。学年間・生活とのつながりのカリキュラム・マネジメントを意識した授業を行った。面接では「なぜ北九州市にしたのか」の質問に対して、STEAMLab に所属することでできた現役の先生方や関係者の方々との「つながり」から得た北九州市の特産物や地形・市長の話などを自分の経験や内容に繋げてアピールした。

8. 福岡県

福岡県の模擬授業は、生徒指導が題材になっている傾向であった。そのために、過去の模擬授業をすべて行い、自分の苦手を知り対策を行った。当日も、お題を見て不安になってしまったが、練習で「何を伝えたいのか」道筋を立てる重要性を実感したので、そこだけはしっかりと行った。

面接での質問に対しては、絶対に「福岡県で働きたい」ことを絡めるようにした。STEAMLab の経験を話すときにも、福岡県の「あまおう」が野菜か果物かで児童のお興味を引き付け、カリキュラムマネジメントを行いたいと答えた。

英会話についても、「福岡県」の要素を入れるように心がけて対策をしていった。実際は話せなかったが、その分を面接の内容に反映させることができた。

9. 山形県

山形県では、エントリーシート（面接個票）の「自己 PR」欄に下記の項目を盛り込んだ。

私の特徴である相手の強みを引き出し、自覚を生み出す「プロデュース力」で仲間の良さや能力をお互いに高め合うことができた。STEAMLab ではそれぞれの役割を分担して、面接練習やエントリーシートについて意見を話し合った。

卒論では「ICT を活用したカリキュラムマネジメントを通じた批判的思考力の育成」について探求している。小学校 4 年生の「式の計算と順序」を題材に、外国語の文化や国語の「慣用句」、文章などについてのつながりを意識した授業を構成した。主体性・自発性の育成に効果的であると考えた。

10. おわりに

本報告をするにあたって、地元を離れ他府県を受験することに対して大きな不安があった。しかし、STEAM-Lab 出身の現役の先生方が活躍されている姿や親身になって相談に乗ってくれる仲間に支えられて合格することができた。春からは親元を離れるが、STEAMLab でできたお世話になった先生や先輩方・仲間との「つながり」を大切にして教員生活を送っていきたい。ここに所属することで教育に対しても自分自身に対しても深く考えることができた。ぜひ、成長するきっかけとなることだと思うので参加してみてほしい。

（2022 年 3 月 2 日　受理）